

## <名古屋大学陸上競技部時代の鈴木さん>

文責：國枝秀世 名古屋大学陸上競技部部長（当時）

### 1. 入学

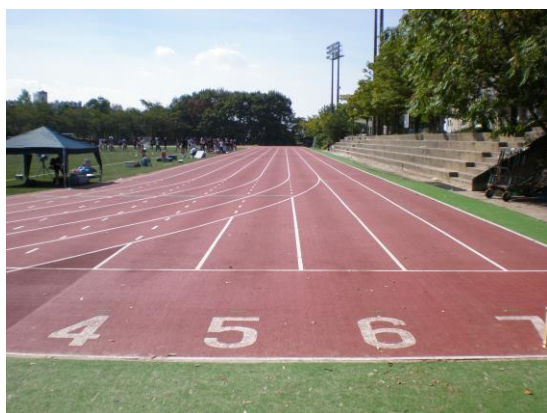
2009年夏頃、鈴木さんと連絡を取り合っていた名大陸上競技部金尾洋治監督から紹介があり、時習館高校生だった鈴木さん本人とお父さんとお会いする機会がありました。私からは名大に入る力があるなら名大に入り、学問を身につけておくことは一生を考えれば絶対に役立つことを伝えました。練習環境については金尾監督という素晴らしい指導者がおられ十分保証できることを話しました。最終的には名大を受験してくれ、2010年3月見事、経済学部合格しました。

### 2. 練習

練習は全て金尾監督にお任せしていました。学業にも追われる大学生の指導に経験豊富な金尾監督は、長距離選手をS, A, B, Cのクラス別にして練習計画を立て、実力がつくと上のクラスに上がって行き卒業までには駅伝の正選手になれる流れを作り上げておられました。当時の鈴木さんの記録は男子のBかCに相当し、一緒に練習する中で徐々にクラスを上げて行きました。どこかの男子駅伝大会の際に金尾監督から「鈴木を8人目の選手にしたいくらいだ」と聞いた覚えがあります。高校時代に怪我で苦しんだことを念頭に週3日の合同練習だけに絞り、注意深く様子を見るのが金尾流でした。ただ練習にひたむきな鈴木さんは、時々監督の見ていないところで走り過ぎて故障につながったことも聞いたことがあります。この金尾流で培われた力が卒業後の活躍の礎になっていると思われまます。

### 3. 施設

名古屋大学では2009年度の学内施設改良の一環として、2010年3月に山の上の陸上競技場がウレタン舗装されました。硬い走路が足に負担をかけるのではと金尾監督に尋ねたところ、むしろ雨が降っても同じ内容の練習が計画通りにできるメリットが大きいと言われました。実際、丁度入学して来た鈴木さんも在学中は大きな怪我もなくしっかり練習が積めた様に思われます。ウレタン舗装は、今年400mHの学生個人選手権を取った真野悠太郎（医学部5年）選手や小田将矢（工学研究科M2）選手の活躍にも活かされ、大学への恩返しができる様に思っています。

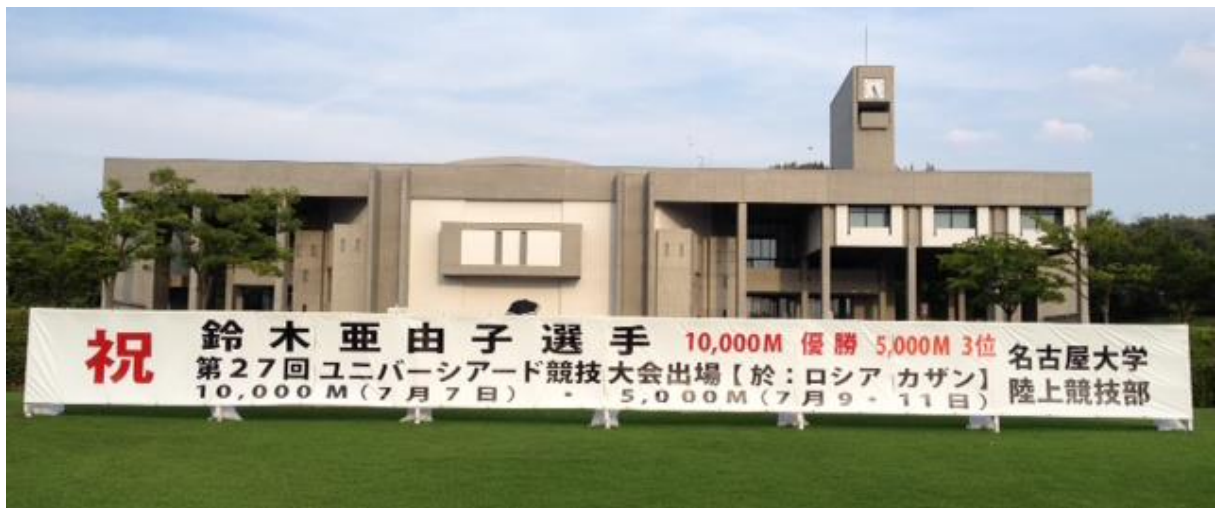


#### 4. 競技成績

最初に驚かされたのは1年生で選ばれた2010年世界ジュニア選手権5位入賞です。カナダのモントリオールへ初の海外遠征に出かけ好成績を収めたことで濱口総長(当時)から特別表彰を頂きました。世界を垣間見た最初です。



2年生、3年生では日本学生選手権で優勝し、4年生ではロシアのカザンで開催されたユニバーシアードで10000m金、5000m銀メダルを獲得してくれました。当日深夜に競技会のHPを見張っていたところ、優勝の結果を見つけ一人で大興奮した覚えがあります。海外の慣れない環境の中でも実力を発揮できる集中力に本当に感心させられました。この活躍に際して大学では豊田講堂前の芝生に横断幕を掲げて頂き学内外に大きなアピールができました。



これに合わせ、山の上の陸上競技場の壁面に顕彰のパネルを設置して長くその栄誉を称えることにしました。これは現在も見るができます。



## 第27回ユニバーシアード競技大会出場 2013年7月 ロシア カザン

名古屋大学陸上競技部

**鈴木 亜由子**

(監督 金尾洋治)

女子 10,000m 金メダル受賞

記録 32分54秒17

女子 5,000m 銀メダル受賞

記録 15分51秒47



### 5. 英語について

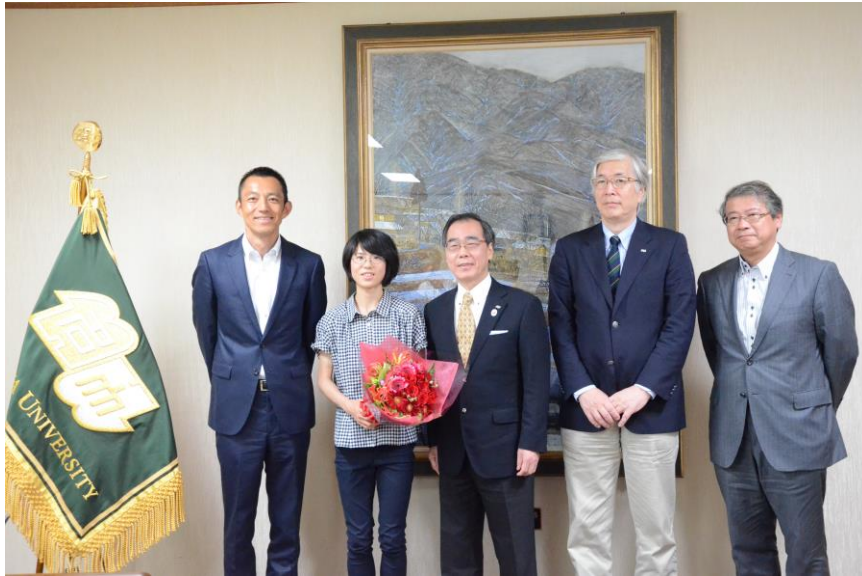
3年生になった2012年はロンドン・オリンピックの年でした。2年生の終わりに大幸財団の奨励賞を貰った時に、鈴木さんにその賞金を使って英会話教室に行くように勧めました。「ロンドン・オリンピックに行くつもりなら、ちゃんと英語で話せる様にしないとイケないよ」と話したところ、某教室に通い始めました。残念ながらオリンピック代表を決める2012年6月の日本選手権では好成績を残せず出場は叶いませんでしたが、教室には続けて通ったようです。いつだか「記者会見、英語でも大丈夫です」と話していましたので、2013年のユニバシアード優勝時には発揮されたのではないかと思います。

### 6. 卒業・就職

3年生の冬にはいくつかの企業の関係者を競技会ばかりでなく大学のグラウンドでも見かける様になりました。私からは本人に名古屋大学経済学部の卒業生として就職を考える様に伝えました。走り終わった後の長い人生を考え、大学で身につけた学問が生かせる道を共に考えて欲しいと思いました。日本郵政の高橋監督がご挨拶に来られた折には二つのお願いをしました。「オリンピックに連れて行って貰うこと」「走り終わった時には経済学部卒業生として企業の本流に戻れること」です。すでに最初のお願いはリオで、そして今回東京で実現されました。二つ目はまだ先の話です。

### 7. リオ・オリンピック

卒業2年後の2016年6月の日本選手権は名古屋の瑞穂競技場で開催され、見事10000mに優勝し5000mと共にリオ・オリンピック代表を決めました。スタンドでは松尾総長を始め多くの大学関係者に応援頂きました。その翌日、鈴木さんは高橋監督と共に名大へ表敬訪問してくれました。



リオ・オリンピックは 10000m 決勝が 8 月 12 日に開かれ、私もお盆休みを取ってリオまで応援に出かけました。残念ながら、直前の米国ボールダーの合宿で足を痛め 10000m 回避、5000m 予選敗退に終わってしまいました。世界の高いレベルを目の当たりにしたことと、走れなかった悔しさが今回の東京でのマラソン出場への強い思いにつながっていると思われます。

名古屋大学陸上競技部の門を叩いてくれた鈴木さんを、名古屋大学で育み世に送り出した後、ここまで成長してくれたことを大学関係者として心から嬉しく思います。今回の東京オリンピック代表内定は、次の大目標へのスタート点であり、これに向かう鈴木さんを今後もしっかりと応援したいと思っています。

## 8. 海外からの祝福メール

- (1) 天野 浩 未来材料・システム研究所教授から、MGC ゴール 1 時間後に以下のメールを頂きました。

=====

國枝先生

今ミラノに居ります。鈴木亜由子さんの東京オリンピック、マラソン代表の内定おめでとうございます。大学としても、応援したいですね。

天野

=====

これは現地時間で朝 5 時のメールです。深夜にインターネットで結果をウオッチ頂いたものと思われます。以前、何かの折に鈴木さんのこととお話ししたところ、MGC のスタート、ゴールの時刻も調べておられたようです。鈴木さんにもこの件を伝えておきました。



(2) 神山知久 副理事 (名古屋大学テクノロジー・パートナーシップ(NUTech)所長から、当日夜 (現地早朝) に以下のメールを頂きました。

=====  
朝の Web の新聞で鈴木さんが見事に MGC で 2 位に入られたことを拝見しました。名大 OB、名大職員として本当に嬉しい限りです。このような気持ちにしてくださった鈴木さんに心より感謝いたします。素晴らしいです！  
=====

神山さんは 1989 年の名古屋開催の七大戦の際の体育会幹部で総合優勝を果たしたメンバーです。オフィスには七大戦や名大の旗が飾ってあります。バレー部 OB でもあります。

